

磨嘴子遺跡を知るための用語解説

【か】

河西回廊 かせいかいろう

北をモンゴル高原、南を祁連山脈に挟まれた東西に細長い回廊状の地域。甘肃省内にあるシルクロードのメインストリートとして、交通・軍事上、重要な役割を果たした。「河西」は「黄河より西」を意味する。

霍去病 かくきょへい

河西回廊から匈奴を駆逐した前漢の青年将軍。漢の版図を西域へ広げるために活躍し、各地に伝説を残す。現在、墓は陝西省にある。

嘉峪関 かよくかん

5頁写真参照。国土防衛のために築かれた明代の関所。南北に長城が延びる。当時みられた威容を誇る外観は、現在、完全に修復されており、観光地として見せる。

漢代 かんだい

紀元前206年から紀元7年までを前漢、23年から219年までを後漢、その間を新といい、これらを総称して漢代という。強大な軍事力による専制的な中央集権国家である。武帝の時代には対匈奴戦争が本格的に始まり、河西四郡が設置されて西方進出の拠点が形成された。漢代に確立した一元的な支配体制や儒教思想、文化、社会構造などは、以後、中国の歴史に大きな影響を及ぼした。

甘肃省 かんしゅくしょう

甘肃省という名称は、張掖と酒泉の古名である甘州と肅州に由来する。東西の距離は約1,655km、南北の距離は広いところで530km、もっとも狭いところで約20kmと、東西に細長い。中部から西部にかけて河西回廊が走る。中華人民共和国成立後、近代化の波が押し寄せ、天然資源の開発や工業が盛んである。2003年、酒泉市ではアジア初の有人宇宙船「神舟」の打ち上げに成功した。

甘肃省博物館 かんしゅくしきょうはくぶつかん

国立甘肃科学教育館を前身とし、1959年に地域総合博物館として開館。甘肃省の歴史や自然について豊富な資料を総合的に展示する。2006年に展示棟を全面リニューアル・オープンした。常設展示として「甘肃のシルクロード文明」、「甘肃彩陶」、「甘肃の古生物化石」があり、充実した展示品をそろえている。見学者には英語・日本語による解説もある。



甘肃省文物考古研究所 かんしゅくしきょうぶんぶつこうこけんきゅうじょ

1952年に成立した甘肃省文物管理委員会を前身とし、1986年に現在の名称となる。国家の鉄道や幹線道路、ガスパイプライン建設計画に伴う緊急発掘調査を行っているほか、全省の文物・遺跡の計画的な学術調査や保護研究を推進している。

牛肉めん

「早い安い旨い」の三拍子が揃った、麺王国蘭州を代表する料理で中国全土に知られる。麺の太さは6段階から選べ、ラー油や香菜の量は調整できる。黒酢を入れて麺を食べながら、生ニンニクをかじるのが

蘭州スタイル。蘭州市では牛肉めん以外にも数多くの麺料理が楽しめる。

仰韶文化 ぎょうしょうぶんか

1921年、スウェーデンの考古学者アンダーソンにより河南省で発見された。紀元前5,000~2,000年の新石器時代文化で、河南省、陝西省、甘肃省に広く分布する。土器に赤や白の化粧土をかけ、黒や赤の顔料で文様を描く彩陶を特徴とする。

玉門関 ぎょくもんかん

5頁写真参照。前2世紀末の漢代に設置された関所跡。現在の敦煌市にある。ここから西は異民族の世界であった。西アジアの玉類が通ったのでこのように名付けられた。この関門は、唐代に吐蕃の進入によって、より東方、現在の玉門市まで後退し、その役目を終えた。

祁連山脈 きれんさんみやく

海拔3,500~5,000mの山脈で青海省との境をなし、全長は1,000km。山頂には万年雪をいただく。河西回廊の南縁をなし、大雪山、走廊南山、冷童嶺など7条の山脈によりなる。磨嘴子遺跡からもその雄壮な連なりを眺めることができる。

ゴビ ごび

日本でゴビ砂漠といふと、中国北西部からモンゴルにかけて広がる砂漠のことを指す。中国やモンゴルで「ゴビ」といえば、石や砂が混ざり、草がまばらに生える土壤の悪い荒れ地を指す普通名詞である。モンゴルでは、ゴビを冠する地名が多く存在する。日本でも馴染みの深い黄砂とは、この地から風によって巻き上げられて気流に乗った砂のことである。中国では現在、ゴビの砂漠化を防ぐために緑化運動が盛んである。

【さ】

彩陶 さいとう

新石器時代における中国の彩文土器。赤黄色の器面に黒色等で魚や鳥、蛙、人の抽象化した図柄や幾何学的な文様が描かれている。その優れた芸術性、工芸技術もさることながら、器面に描かれた文様からは、人々の自然に対する祈りをうかがうことができる。

シルクロード

内陸アジアを経由してユーラシア大陸の東西を結ぶ古代の交通路。19世紀のドイツの著名な地理学者、F.V.リヒトホーフェンによって名付けられた。西方世界からは中国の「絲の道」であったが、東方世界からすれば玉やガラス、仏教など西方の文物の流入路であった。シルクロードには「オアシスの道」、「草原の道」、「海の道」の3つのルートがある。このうち、もっともメインとなったのは敦煌を通るオアシスの道で、北緯40度付近(秋田の緯度と同じ)を東西に走る。シルクロードの起源については定かでないが、紀元前4世紀末にマケドニアのアレクサンダロス大王が東方世界へ、紀元前2世紀中頃には前漢の武帝が西方世界へそれぞれ自らを向けて始めた頃までさかのほるといえる。しかし、新石器時代の彩文土器の世界的な広がりなどを考えると、より古くから東西交流路として存在していたともいえよう。

新石器時代 しんせきじだい

今から約1万2千年前に始まる時代で、狩猟採集といった旧石器時代の自然資源に依拠したかたちから、農耕・牧畜といった生産経済へ移行した時代を指す。土器や鎌、磨製石斧などが発明された。日本では豊かな森林資源を背景に狩猟採集生活が営まれていたが、中国では農耕や都市が早くも出現した。

【た】

土器館 どきかん

土器を棺として、中に人骨を納めたもの。主に小児の埋葬に用いられる。人骨がないものは埋設土器と呼ばれるが、この中にも土器棺として用いられたと考えられるものもある。

土坑(墓) どころ(ぼ)

人為的に地面に掘られた穴を土坑という。用途はいろいろと考えられるが、例えば中から人骨や副葬品が見つかるなどして墓穴であったことが分かるものは土坑墓と呼ぶ。

土洞墓 どどうぼ

17・18頁参照。漢代に流行した形式の墓。

敦煌 とんこう

漢の武帝が紀元前111年に設置した河西四郡のうちの沙州にあたる。河西回廊最西端のオアシス都市。漢代には西域の門戸としての陽関や玉門関まで長城を延ばしている。このほか莫高窟、鳴沙山など見所が多い。井上靖氏の著作『敦煌』で日本人には馴染みが深い。

銅奔馬 どうほんぱ

6頁写真参照。別名「馬踏飛燕」。武威市雷台の後漢墓で発見。燕を踏んで天駆けるその姿は、漢の武帝が求めた汗血馬を想わせる、芸術的にも優れた文物である。現在、中国国家旅游局のシンボルとなっている。

【は】

麦積山石窟 ばくせきざんせっくつ

1・5頁写真参照。甘肃省天水市にある。その名称は、山体が農家の麦打ち場にある藁塚に似ていることに由来する。1953年の調査により標高142mの絶壁に194の石窟が発見された。後秦から清まで長きにわたり開削される。切り立った岸壁に渡された見学用通路は実際にスリリングである。



藁塚(5頁の麦積山の写真と比較)

莫高窟 ばっこうくつ

5頁写真参照。世界文化遺産として名高い。およそ30kmにわたる断崖に490以上の石窟が開削されており、「砂漠の大画廊」と呼ばれる。紀元5世紀の北涼から元代に至るまで連綿と造営された。一般に公開されている石窟は40か所ほど。

万里の長城 ばんりのちょうじょう

国土を外敵の侵入から守るために築いた防衛壁。有名な長城は北京市にある明代のものだが、起源は春秋戦国時代に遡る。防衛のみならず、シルクロード上の交易路の確保としての役割も担った。甘肃省敦煌市にある漢代に築かれた長城が最西端である。甘肃省の長城は主に秦・漢・明代の各時代に築かれている。製法は、20cmごとに黄土層を棒で突き固める「版築」と呼ばれる方法が用いられている。黄土層の間には5cm程度の草や紅柳などの植物層を挟んでいる。北京にある明代の長城はレンガが使われているが、長城は本来その土地で容易に手に入る材料で築かれているらしい。現在、風化が進んでいるため、保護プロジェクトが国家レベルで実施されている。

漢代の長城。黄土層と草の層が、バームクーヘンのように交互に積み重なっている様子がうかがえる



武帝 ぶてい

紀元前156年～紀元前87年。前漢の第7代皇帝。外征面では、衛青や霍去病を登用して、匈奴討伐を成功させるとともに西方進出を強力に推し進め、領土を最大のものとして、前漢代の最盛期を迎える。内政面ではとくに治世の後半において悪政をしたともいわれるが、中央集権的国家の確立への移行期とも評価される。

【ま】

鳴沙山 めいささん

敦煌にある東西約40km、南北約20kmの広大な砂漠。岩砂漠であるゴビとは違い、粒子の細かい砂丘が急峻な峰をつくり、その自然の造形美は日本人が抱く砂漠のイメージそのままである。ある条件が整えば斜面を流れる砂粒が音を発することから名付けられた。砂丘の中には漢代の遊覧地であった月牙泉と楼閣がある。翡翠色の水をたたえる月牙泉は枯れることがないという。



鳴沙山と月牙泉

木俑 もくよう

副葬品として用いられた木製の人形で、武人、官人、侍女、馬など主題は多岐にわたる。墓主の生前の暮らしを再現しようとしたものであろう。後漢以降、陶製のものが主流となる。

木簡 もっかん

簡とは竹製の書写。竹を産出しない敦煌や武威では木製の札、すなわち木簡が使われていた。木は竹の代用品と考えられる。細長い木簡をすだれ状に紐でつなげた様子から「冊」という字が生まれたといふ。

【や】

陽關 ようかん

「君に捧げよう、さらに尽くせ、一杯の酒、陽關の西を出すれば故人無からん」唐代の詩人、王維が詠んだ、敦煌にある古代の関所跡。今も陽關を出ると荒涼とした砂漠の風景が果てしなく続く。「西遊記」で私たちにもなじみ深い、かの有名な玄奘三蔵が天竺から帰国する際に通ったといわれる。



陽關より荒涼たる西方を臨む

【ら】

雷台 らいだい

武威市街地から北へ1kmの所にある。雷神廟をのせる土台の意だが、1969年に雷台の下から発見された後漢代の墓がここを一躍有名にした。このレンガ製の墓からは古代の隊列を模した銅製品一式が出土し、その先頭を走る銅奔馬が優れた芸術品として注目された。

蘭州市 らんしゅうし

甘肃省の省都。東西約50km、南北約6kmと、甘肃省全体のかたちと同様、東西に細長い町である。人口は300万人を越え、年々増加傾向にある。青海省に源を発する黄河が最初に通る都市であり、黄河にかかる黄河第一橋(中山橋)は有名である。現在、工業が盛んであるが、農業のほか果物にも力を入れており、「瓜果城」とも呼ばれる。漢代には西方進出の拠点として早くも金城郡がおかれて、張掖、武威をしおぐ要衝としての地位を高め、1666年に省都となる。

秋田県・甘肅省文化交流事業の歩み

※職氏名は当時

年度(西暦年・月)	事業に関するできごと	事業の内容	備考(派遣職員等)
昭57(1982)	秋田県・甘肅省友好提携の締結		
平2(1990)	中国甘肅省文物展		アトリオンオープン記念にあわせて開催
平4(1992.7)	秋田県・甘肅省相互職員派遣		王琦
平5(1993.6)	秋田県・甘肅省相互職員派遣		武藤祐浩
平9(1997.8)	甘肅省寄贈の壁画模写一般公開		アトリオンで開催
平11(1999.8)	「日本国秋田県と中華人民共和国甘肅省友好交流事業発展に関する趣意書」調印		副知事 板東久美子
平12(2000.10)	秋田県文化代表団派遣	文化分野における相互派遣、磨嘴子遺跡の合同発掘調査に係る協議	教育長 小野寺清(団長)
平13(2001.5)	「日本国秋田県と中華人民共和国甘肅省との文化交流推進に係る協議書」調印		教育次長 秋元昌貴
平13(2001.6)	秋田県交流員の派遣開始	博物館・文化財研修等	小林克・宇田川浩一
平13(2001.7)	甘肅省交流員の受け入れ開始	埋蔵文化財研修	王琦・魏文斌
平13(2001.11)	県教育庁協議団の派遣	合同発掘調査実務協議	櫻田隆・武藤祐浩
平14(2002.1)	「甘肅省磨嘴子遺跡において実施する合同発掘調査に関する意向書」調印	県埋蔵文化財センターと省文物考古研究所で調印	
平14(2002.5)	秋田県交流員の派遣	遺跡分布調査・博物館研修等	吉川耕太郎・小島朋夏
平14(2002.7)	甘肅省交流員の受け入れ	遺跡分布調査・博物館研修等	趙雪野・王勇
平14(2002.7)	県省友好提携20周年記念植樹	記念式典の開催	
	県教育庁代表団の派遣	赤外線TV贈呈	教育長 小野寺清(団長)
平14(2002.10)	「中日合作による甘肅省武威市磨嘴子遺跡に対する考古調査、探査と発掘に係る批准と回答」		国家文物局
平14(2003.3)	「甘肅省磨嘴子遺跡において実施する合同発掘調査に関する協議書」調印		
平15(2003.9)	秋田県交流員の派遣	磨嘴子遺跡合同発掘調査の開始	村上義直・新海和広
平15(2003.10)	秋田県側合同発掘調査団長の派遣		大野憲司(団長)
平15(2003.10)	合同発掘調査視察団の派遣 記念式典		教育長 小野寺清(団長)
平15(2003.10)	甘肅省交流員の受け入れ	文化財業務全般の研修	周広済・李曉青
平16(2004.5)	秋田県交流員の派遣	磨嘴子遺跡合同発掘調査	武藤祐浩・加藤竜
平16(2004.6)	秋田県側合同発掘調査団長の派遣		櫻田隆(団長)
平16(2004.8)	秋田県・甘肅省文化交流事業協議団の派遣	合同発掘調査の視察・事業全体の協議	副知事 西村哲男(団長) 県民ツアーモーも実施
平16(2004.8)	甘肅省交流員の受け入れ	文化財業務全般の研修	劉志華・毛瑞林
平17(2005.4)	秋田県交流員・合同発掘調査団長の派遣	磨嘴子遺跡合同発掘調査	谷地薰・藤田賢哉・櫻田隆(団長)
平17(2005.7)	甘肅省交流員の受け入れ	文化財業務全般の研修	張俊民・葛雅莉
平17(2005.11)	甘肅省協議団との協議	今後の事業展開を協議	廖北遠・楊惠福・王輝
	中国甘肅省特別講演会の開催	県内2会場で省協議団による講演	
平18(2006.5)	秋田県交流員の派遣	文化財業務全般の研修	菊池晋・石井志徳
平18(2006.6)	甘肅省交流員の受け入れ	文化財業務全般の研修	趙興成・盧燕玲
平18(2006.11)	中国甘肅省文化交流展の開催	県内3会場で講演会・写真展	

中国と日本の略年表

中 国		年 代	日 本	
主 な 出 来 事	時 代		時 代	主 な 出 来 事
●狩猟採集の生活	旧石器	<紀元前>	旧石器	●狩猟採集の生活
●農耕牧畜の開始 ○彩陶 [磨嘴子遺跡 集団墓地]	新石器	約1,1000		○土器の発達 ○竪穴式住居
●青銅器の使用と王朝の成立 ○甲骨文字 この頃、周成立	殷(商)	1,600頃	縄文	
紀元前 551頃 孔子生まれる	西周	1,100頃		
●鉄器の使用	春秋	770頃		●農耕の開始
紀元前 221 秦、中国統一	戦国			
紀元前 201 前漢成立	秦	200		
紀元前 139 武帝、張騫を西域に派遣	前漢	100		
●仏教の伝来	新	<紀元> 0	弥生	●小国の発生
25 後漢成立 [磨嘴子遺跡 土洞墓]	後漢	100		57 倭奴国王、金印を受ける
220 三国時代に入る	三国	200		239 卑弥呼、魏に使者送る
280 晋、中国統一	晋	300		●古墳の造営
304 華北、五胡十六国の時代	五胡十六国	400	古墳	
366 敦煌莫高窟の開窟	南北朝	500		
439 南北朝時代始まる	隋	(飛鳥)		●仏教の伝来
589 隋、中国統一	唐	600		593 聖徳太子、摂政に
618 唐、成立		700	奈良	遣隋使・遣唐使 大化の革新
645 玄奘、インドから帰国 ・この頃、長安(西安)栄える		800	平安	710 奈良に都を遷す
960 北宋、成立	五代・北宋	900		794 京都に都を遷す
1038 西夏、成立	西夏・金	1,000		894 遣唐使を廃止
1127 南宋、成立	南宋	1,100		
1271 元、成立	元	1,200	鎌倉	1192 源頼朝、鎌倉に幕府
1368 明、成立	明	1,300	室町	元寇
		1,400		1338 足利尊氏、京都に幕府



秋田県教育委員会

秋田市山王三丁目1番1号

TEL.018-860-5193

FAX.018-860-5886